

令和6年度 金津地区地域福祉懇談会（新年度打合せ会議）報告

<p>福祉懇談会（金津地区）</p> <p>日時：令和6年5月26日（日）13:30～15:45 会場：金津地区コミュニティセンター</p>	<p>出席者</p> <p>金津コミ協：青木会長、中野副会長、佐久間副会長、清田会計、萱森事務長 金津地区自治会町内会長会：伊藤副会長 金津地区社協：小林委員長、源川委員 金津地区民児協：茨木会長、太田副会長、長谷川副会長、高橋民生委員、沼田民生委員、山崎民生員、小玉民生委員、長谷川民生委員、宮崎民生委員 就労支援事業所メロディ：五十嵐施設長 地域包括支援センターこすど：木村センター長、石黒社会福祉士 秋葉区社協：横山事務局長補佐、藤田</p>
--	--

	課題・具体的な取り組み（現況）	R6年度の取り組み
居場所	<p>○茶の間の送迎支援について （地区社協主催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶の間に来たくても来れない方の支援としてタクシーを活用した移動支援について、本格実施のためにガイドライン（ルール作り）を作成した。コミセンに来たことがなかった人や遠慮があった人からも参加があり、とても評判がいい。 ・タクシー会社の人手不足もあり、タクシーの確保が難しいことや乗車できる人数に限りがあるため、誰でもというわけにはいかない等、課題がある。 ・安心して参加してもらえるよう地域の委員が声をかけ、おしきせにならないよう声かけの方法やタイミングには配慮している。 <p>○茶の間の運営につて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会が主体となって開催していることを周知し、誰でも参加できるよう 	<p>○「地域の茶の間いっぷく」での送迎支援のガイドライン作成</p> <p>○各地区の茶の間の継続した運営</p> <p>○安全面の検討</p>

	課題・具体的な取り組み（現況）	R 6 年度の取り組み
居場所	<p>にしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立ち上げの際に、継続できるよう自治会内で誰が（どの役が）関わっていくか考えた。 ・ 公会堂に入るには上り坂や階段があるためきつい。 ・ 茶の間でケガをされた方がいたが、保険に入っていなかった。 ・ 参加者も運営側も高齢であり、送迎や救急対応等どこまでボランティアで責任を持つか悩んでいる。 ・ 地域内で茶の間をつくる力のある人材がおらず、立ち上げは難しい。 <p>○茶の間の参加者について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケガをしてお休みされていた方が杖をつきながら参加してくれ、「ここに来るのをとても楽しみにしている」との声がとても嬉しかった。 ・ 足の問題だけでなく、参加することをあきらめていたり、一人が楽という人もいる。 ・ 参加人数が少なく、毎回回覧をしても難しい。 ・ 参加を躊躇される方にどのように後押しをして、どのように寄り添ったら応えてくれるだろうか。 ・ 茶の間に何もしなくても出てきてくれることが見守りにもなる。 ・ お休みしても仲間のつながりで情報が入り、安心につながる。 <p>○子どもの居場所づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉事業所（メロディ）の利用者がいない時間帯を子どもの居場所として活用可能である。 ・ 金津～蒲ヶ沢の子どもたちがコミセンに寄ってくれるようになった。コミ 	<p>○茶の間の参加へつながる声かけ</p> <p>○子どもの居場所づくりの検討</p>

	課題・具体的な取り組み（現況）	R 6 年度の取り組み
見 守 り	<p>センが子どもたちの心休まる場の一つになってほしい。</p> <p>○高齢者の見守り活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者が交代したことで、見守りの継続に至らなかったが、いつでも顔を出すこと、訪問することを声かけしている。（あい愛訪問） ・対象者の記録をしており、改選時に担当が交代する際には、なるべくスムーズに行くよう引継ぎをしている。（友愛訪問） ・訪問した際、誰とも話さない日があるという話を聞く。 ・耳が遠く、茶の間等には参加はしないが、友愛訪問で訪問することは喜んでいただいている。 ・今後は高齢男性の一人暮らしが増えていくと思われ、一人ということに対して先行きのことを心配している声が聞かれる。 ・自治会長であっても全ての情報が入ってくることはない。 ・友愛訪問対象外の世帯でも認知症等気になる世帯がある。 <p>○認知症について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装が季節と違ったりと、認知症の疑いがあることに地域の方が気づいている。 ・家族の想いと地域の対応に違いがある。 ・家族が近くおらず、ものとりれ妄想の症状がある方について、どのように対応したらいいだろうか。 <p>○子どもの見守り活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども安全パトロールで危険箇所等があった場合は、自治会長や学校と情 	<p>○あい愛訪問の継続（地区社協）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続した見守り活動の工夫 <p>○友愛訪問の継続（民生委員）</p> <p>○情報共有・連携 （地区社協、自治会・町内会、民生委員）</p> <p>○認知症の理解の周知</p> <p>○子ども安全パトロールの継続（民協）</p>

	課題・具体的な取り組み（現況）	R 6 年度の取り組み
見守り	<p>報共有を行っている。（民協）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員に子どもたちに関する相談があまり伝わってこない。 <p>○通学路の安心・安全について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の部活後の暗くなる時間帯に対応できるようバスダイヤの改正を行い、また利用しやすいよう予算内で運賃を無料で対応し、子どもたちの通学路が安心・安全になるようにした。 ・びいす金津の活動がコロナ禍でP T Aから離れた活動になっていたが、コミュニティスクールのメインの活動となったことで、P T Aを主体としたみんなで子どもたちを守る持続可能な取り組みにしていきたい。 ・登校時に地域内を見回り、子どもたちと挨拶できる関係になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○下校時の安心・安全につながるバス運行 ○びいす金津の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・ P T Aを主体とした持続可能な取り組み
助け合い	<p>○ごみ出しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所づきあいの中で、体が不自由でゴミ出しが出来ない方いることがわかり支援につながった。支援が必要な方がいるかわからなければ、支援につなげることは出来ないため、近所付き合いが一番大切である。 ・ごみステーションが近くにあるとは限らず、足が不自由な方や台車に載せてごみ出しをしている高齢者もあり、町内で検討が必要である。 <p>○移動支援について（茶の間以外）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許返納したときには、買い物支援などが必要となる。 <p>○地区内の福祉活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる活動、事業等を通じて声なき声を拾い上げ、期待に応える活動を 	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみ出し支援が必要な方の把握と検討 ○免許返納後の移動支援の検討 ○福祉活動の情報共有 ○支え合う地域づくりの推進

	課題・具体的な取り組み（現況）	R 6 年度の取り組み
助け合い	<p>していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会内の福祉活動について調査を行い、5年前から1歩ずつ進んでいる状況がわかった。とりまとめた情報は各自治会に提供し、町内の福祉活動の参考にしてほしい。（民協） 民生委員児童委員のチラシを配布することで、役割の周知と理解を広め、困ったときにつながることができる。（民協） 声をかけ合い、顔が見えなければ心配する等、やさしい気持ちを持つ雰囲気地域内にあるとよい。 福祉事業所（メロディ）で、共生社会の実現に向け、65才以上・子育て世帯を対象に、草とり等金津地区限定でまごの手サービスを展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○障がいのある方の活躍の場（就労支援事業所メロディ）
防災	<ul style="list-style-type: none"> ○防災への取り組み（コミ協） <ul style="list-style-type: none"> ・元旦の地震では、人材がないということで福祉避難所が開設されなかった。また、避難所を開設したが課題もあがり、市へお願いしている。 ・小・中学校との合同防災訓練を継続して実施する。 ・新津高校での防災の取り組みに協力し、金津の防災への取り組みが地域外へも広がっている。 ○災害時要支援者への対応（自治会町内会） <ul style="list-style-type: none"> ・元旦の地震の際、まずは自分と家族の家を守り、その後役員と町内を回って歩いた。その後、要支援者へ電話をしたが、情報に誤りがあり全く繋がらず、まずはそこから整えていかないと具体的な取り組みが出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所運営について市へ要望 ○コミ協主催防災訓練の実施 ○小・中学校合同防災訓練の実施 ○要支援者への対応の検討 ○個別避難計画の作成に向けた連携

	課題・具体的な取り組み（現況）	R 6 年度の取り組み
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・役員も仕事をしており、対応が遅れ気味になる。 <p>（民協）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別避難計画の作成には、自治会と情報共有・連携しながら対応したいが具体的などころには至っていない。 ・民生委員としての役割の大枠はまとめた。町内会との連携は、町内によって違ってくるので決めることは出来ない。 	
自治会町内会	<p>○情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会の会長、役員が1、2年で交代するところが多くなっている。 ・自治会から選出された民生委員や地区社協委員、コミ協専門部員と自治会長との情報共有や顔の見える関係が大事である。 ・男性はコミュニケーションが少ない。 ・役員会議では、意見の言いやすい雰囲気があり、色々な意見が出せる。 ・民生委員に入ってきた情報は、自治会と共有している。 <p>○取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな町内という状況の中で、地域を活性化していかなければならない。まずは地域のエネルギーを集約するため、公園の環境整備のボランティア組織を立ち上げたが、福祉活動に転化するのは難しい。 	<p>○自治会・町内会内の関係づくりと情報共有</p> <p>○自治会・町内会内の福祉活動の推進</p>